身体部位を表す方言語彙の表示システム 第2報

北村達也（甲南大学知能情報学部）篠本尚輝（甲南大学知能情報学部学部生）
今村かほる（弘前学院大学文学部）岩城裕之（高知大学教育学部）

1 背景と目的

- EPAにより日本語を母語としない看護師や介護福祉士が日本国内にて就労するようになっている
- 身体の部位やその症状を現す方言語彙がコミュニケーションの障壁となっている
  - 看護研修生の88 %，介護研修生の75 %が方言で困った経験あり (今村ら, 2015)
  - 日本語母語話者同士であっても障壁となり得る (今村ら, 2013) (岩城, 2015)

日本語を母語としない看護師や介護福祉士のために身体語彙を直感的に検索できるアプリケーションを開発（日本語母語話者にも有用）

2 前報にて提案したシステム (山本ら, 2016)

- 今村ら(2014)による方言ツールを電子化
- PCやタブレットで使用
- 直感的な操作
- 発表の際に得られたフィードバック
  - 方言音声の提示が必要
  - 外国語表示が必要

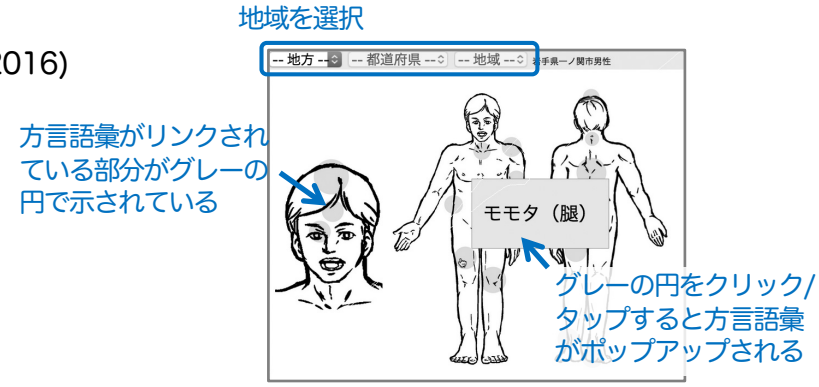
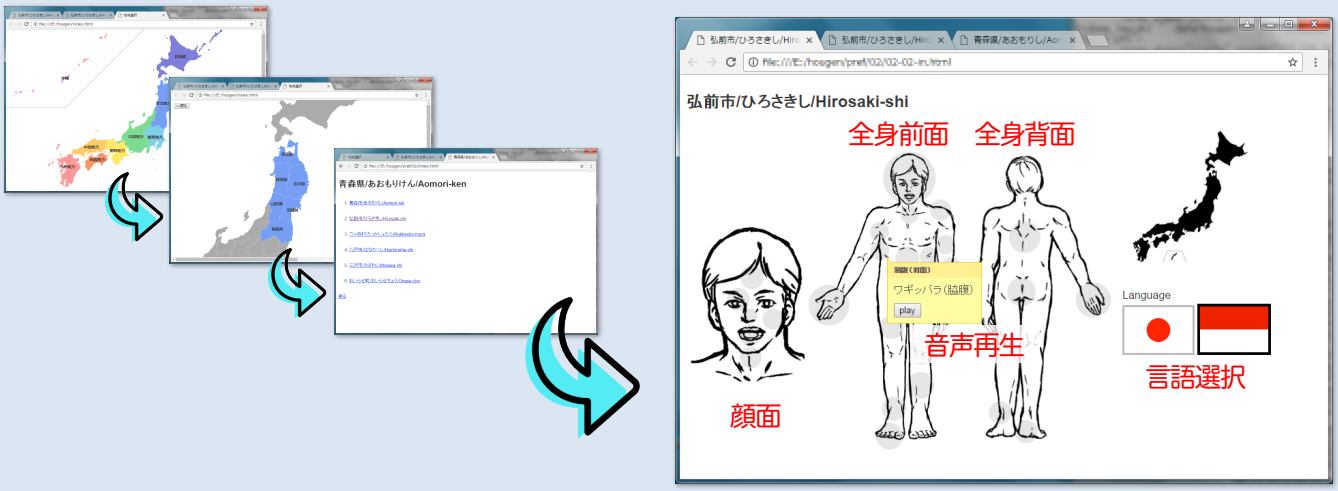


図1：前報にて提案したシステム

3 改良版システム

- グラフィカルな地域選択
- デザインの刷新
- 方言形の音声出力
- インドネシア語表示に対応



謝辞　本研究の一部は平成28年度科研費基盤研究(B)(15H03219)および私立大学等経常費補助金特別補助「大学間連携等による共同研究」の支援を得て行われた.